

2017年11月

プレスリリース

展覧会
荒木経惟 私、写真。

2017年12月17日（日）-2018年3月25日（日）

年末休館：2017年12月25日（月）-31日（日）

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



荒木経惟「花霊園」2017年

©Nobuyoshi Araki courtesy of Yoshiko Isshiki Office, Tokyo

【お問い合わせ及び資料のご請求先】
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
展覧会担当=松村円
〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1
Tel. 0877-24-7755 / Fax. 0877-24-7766
E-mail. press@mimoca.org

荒木経惟 私、写真。

【概要】

展覧会名：荒木経惟 私、写真。

会期：2017年12月17日（日）-2018年3月25日（日）

（年末休館：2017年12月25日（月）-31日（日））

時間：10：00-18：00（入館は17：30まで）

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

助成：一般財団法人自治総合センター

協力：一色事務所、エプソン販売株式会社、株式会社写真弘社、art space AM

観覧料：一般950円（760円）、大学生650円（520円）、高校生以下または18歳未満・丸亀市在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

- ・ 同時開催常設展「猪熊弦一郎展 人物像」観覧料を含む
- ・ （ ）内は前売り及び20名以上の団体料金

前売券販売場所：

〔丸亀〕あーとらんどギャラリー（0877-24-0927）、オークラホテル丸亀（0877-23-2222）、おみやげSHOP ミュー（0877-22-2400）

【展覧会趣旨】

荒木経惟（1940- ）は、1960年代半ばの活動の初期から現在まで、都市、人、花、空、静物といった被写体を、どれも特別視することなく、等しく日常のこととして撮影し、それらのもつ「生」の生々しさ、また「生」と切り離すことのできない「死」を捉えてきました。生と死の比重がそれぞれの写真によって異なって感じられるさまは、人間の生死の揺らぎや荒木個人の人生の反映とも取れ、作品の魅力を増しています。

本展では、これまでに撮影された膨大な写真のなかから、腐食したフィルムをプリントする、写真に絵具を塗る、割れたレンズで撮影するなど、何らかの手が加わることによって生と死をより強く意識させたり、両者の境を攪乱させるような作品を中心に紹介します。こうした試みは、荒木の時々感情から生まれる写真への率直な欲求であり、そのような作品は、従来の枠にとらわれることなく新しいことに挑み、写真にも自身にも真摯に向き合う荒木の姿を改めて伝えてくれることでしょう。さらに、現在の荒木の生を示すものとして、本展のために制作された丸亀市出身の花人、中川幸夫（1918-2012）へのオマージュを表した《花霊園》、友人の遺品であるカメラで撮影した《北乃空》などの新作も出品し、写真と一体となった荒木経惟を紹介します。

【見どころ】

1. 私、写真。

荒木の写真人生を総括するかのように「私、写真。」と銘打たれた本展は、父母の死を捉えた《父死去》（1967）、《母死去》（1974）から始まり、変わらず「生と死」を写してきた荒木の

これまでを紹介します。もちろん、荒木の写真への欲望が締めくくられるはずもなく新作も発表、次のステージへの序章でもあります。

2. 丸亀との関連-中川幸夫へのオマージュ

荒木が長く撮り続け、重要なモチーフである「花」。本展では「花」の作品として、展覧会の開催地である香川県丸亀市出身のいけばな作家、中川幸夫（1918-2012）へのオマージュを込めた新作《花霊園》を発表します。中川と二人展を開いたこともある荒木が、中川を想いながら被写体となる花や人形の選択にもこだわって、二人に共通するテーマ「生と死」を捉えた作品です。また、本作は印画紙ではなく和紙にプリントしており、荒木の新しい境地を開いています。

3. 新作4シリーズ/日本初展示3シリーズ

本展のための新作として、中川幸夫へのオマージュである《花霊園》の他、亡くなった知人の夫人から贈られたカメラで空を撮影した《北乃空》、荒木が敬愛する葛飾北斎の命日である4月18日と自身の誕生日の5月25日の日付で日常を撮り、北斎が称した「画狂老人」にちなんで「写狂老人」と称してきた荒木が、ついに北斎の生まれ変わりとなった《北斎乃命日》、女性を撮った写真にペイントした《恋人色淫》を出品します。《北乃空》は、1枚の写真に2カットが収まっているため、二つの空の間には黒い帯が挿入されており、朝鮮半島の北緯38度線を意識した作品です。また、日本では初展示となる《青ノ時代》（2005年）、《去年ノ夏》（2005年）、《死空》（2010年）を出品。貴重な機会となります。

【関連プログラム】

・キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（松村円、吉澤博之）が展覧会をご案内します。

日時：会期中の毎日曜日 14：00- （他の展覧会関連プログラム開催時は実施しない場合があります。）

参加料：無料。ただし展覧会チケットが必要です。

申込：不要。1階受付前にお集りください。

・みんなで知ろう！アラキー。

アラキー（荒木さん）ってどんな人？どうやって撮ってるの？など、作品を見ながら担当キュレーターがわかりやすくお話しします。

日時：①1月14日（日）、2月11日（日・祝） ②3月10日（土）、11日（日） 11:00-11:30

対象：①小学生と保護者 ②中学生、高校生とその年齢にあたる方および保護者。①②ともに保護者同伴でなくてもご参加いただけます。

参加料：無料。ただし保護者の方は展覧会チケットが必要です。

申込み：不要。1階受付前にお集まりください。

* この他にも関連プログラムを予定しています。決まり次第、当館ウェブサイト (<http://mimoca.org>.)にてお知らせします。

【荒木経惟略歴】

- 1940 東京都に生まれる。
- 1963 千葉大学工学部写真印刷工学科卒業。電通に入社。
- 1964 「さっちゃん」で第1回太陽賞を受賞。翌年、初の個展「さっちゃんとマー坊」を新宿ステーションビルで開催。
- 1967 父、長太郎死去。
- 1971 青木陽子と結婚。新婚旅行を撮影した写真集『センチメンタルな旅』（限定1,000部）を自費出版。
- 1972 陽子と京都に旅行。電通を退社。
- 1974 ポラロイドを撮り始める。母、きん死去。
- 1979 雑誌「ウィークエンドスーパー」（セルフ出版）連載にて、4月1日から日付入りの写真を撮り始める。8月6日、8月9日、8月15日の日付や未来の日付を故意に入れる。
- 1982 世田谷のウィンザーハイム豪徳寺に入居。
- 1990 妻、陽子死去。第二回「写真の会」賞、日本写真家協会年度賞を受賞。
- 1991 『空景／近景』（新潮社）刊行。
- 1992 初の海外での個展「ART-TOKYO 1971-1991」をグラーツ市立公園フォーラムで開催。ザルツブルグ、ロッテルダム、エッセンなどヨーロッパ各地を巡回。
- 1993 『エロトス』（リプロポート）刊行。
- 1997 原美術館にて個展「アラキー レトログラフィ」を開催。ウィーンのヴァイナー・ゼセッションの100周年記念展として、個展「Tokyo Comedy」開催。
中川幸夫との二人展「花淫 さくら」（ギャラリー小柳）を開催。
『死現実』（青土社）刊行。
- 1999 東京都現代美術館にて個展「センチメンタルな写真、人生。」を開催。
- 2000 イタリア、プラートのルイジ・ペッチ現代美術センターにて個展「センチメンタルな旅」を開催、パリの国立写真センターへ巡回。
- 2002 「日本人ノ顔」プロジェクトを開始。
- 2003 下北沢のギャラリー、ラカメラでポラロイドの展覧会「PolAnography」を開始（毎月1-10日の10日間。現在も継続中）。
- 2005 ロンドンのパービカン・アートギャラリーで個展「Self. Life. Death」を開催、同名の関連書籍を刊行（ファイドン）。
『青ノ時代』、『去年ノ夏』（いずれもアートン）刊行。
- 2008 熊本市現代美術館で個展「熊本ララバイ」開催、「母子像」を発表。「オーストリア科学・芸術勲章」受勲。オーストリア科学・芸術アカデミーの生涯会員となる。
- 2009 前立腺癌であることがわかる。『東京ゼンリツセンガン』（ワイズ出版）、『遺作 空 2』（新潮社）、『遺作 空 2』（タカ・イシイギャラリー）刊行。
- 2010 愛猫チロ、22歳で死去。スイス、ルガーノ美術館で個展「Love and Death」を開催。「死空」「チロ死後」などを発表。
- 2011 3月11日は早稲田のAaT Roomにいた。帰宅途中の車の中から「色光線」を撮影する。新潟市より第6回安吾賞受賞。自宅で撮影した「墮落園」を安吾に捧げる。
12月31日、豪徳寺から梅丘に転居。「西ノ空」に分かれを告げる。
- 2012 これまでに刊行した450冊以上の出版物を集めた「荒木経惟写真展 アラーキー」をIZU

PHOTO MUSEUM で開催。翌年、同展にて毎日芸術賞特別賞受賞。

2014 豊田市美術館、新潟市美術館、資生堂ギャラリーの3カ所で展開する個展「荒木経惟 往生写集」を開催。「道」、「8月」、「去年の戦後」などの新作を発表。

2016 パリのギメ東洋美術館で個展「ARAKI」を開催。

2017 東京オペラシティ アートギャラリーで「荒木経惟 写狂老人 A」を、東京都写真美術館で「荒木経惟 センチメンタルな旅 1971- 2017-」を開催。

* 『往生写集』（平凡社・2014年）「荒木経惟 略歴」を参考に作成

【展覧会のお知らせ】

[同時開催常設展]

猪熊弦一郎展 人物像

2017年12月17日（日）-2018年3月25日（日）

年末休館：2017年12月25日（月）-31日（日）

「荒木経惟 私、写真。」 出品作品画像



「花霊園」 2017

©Nobuyoshi Araki courtesy of the artist and Yoshiko Isshiki Office, Tokyo



「北乃空」 2017

©Nobuyoshi Araki courtesy of the artist and Yoshiko Isshiki Office, Tokyo



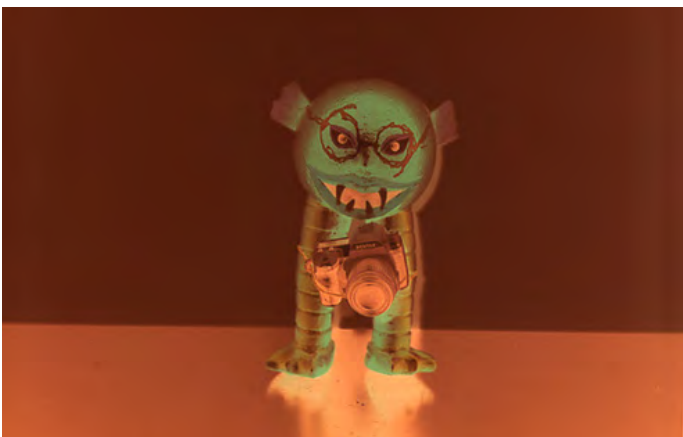
「北斎乃命日」 2017

©Nobuyoshi Araki courtesy of the artist and Yoshiko Isshiki Office, Tokyo



「北斎乃命日」 2017

©Nobuyoshi Araki courtesy of the artist and Yoshiko Isshiki Office, Tokyo



「ネガエロポリス」 2015

©Nobuyoshi Araki courtesy of the artist and RAT HOLE GALLERY



「死現実」 1997

©Nobuyoshi Araki courtesy of the artist and Yoshiko Isshiki Office, Tokyo



「母死去」 1974

©Nobuyoshi Araki courtesy of the artist and Yoshiko Isshiki Office, Tokyo



「父死去」 1967

©Nobuyoshi Araki courtesy of the artist and Yoshiko Isshiki Office, Tokyo

※出品作品例の広報用画像をご希望の際は、データにてお送りいたしますので、当館ウェブ上のプレス用ページ (<http://www.mimoca.org/ja/press/>) よりお申し込みください。なお、著作権の都合上、画像をご掲載の際は必ずクレジット等のご記載もあわせてお願い申し上げます。